

☆聖書で祈る☆

1 テサロニケ 5:12~15, 19~21 互いの尊重

12:兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主に結ばれた者として導き戒めている人々を重んじ、13:また、そのように働いてくれるのですから、愛をもって心から尊敬しなさい。互いに平和に過ごしなさい。14:兄弟たち、あなたがたに勧めます。怠けている者たちを戒めなさい。気落ちしている者たちを励ましなさい。弱い者たちを助けなさい。すべての人に対して忍耐強く接しなさい。15:だれも、悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。お互いの間でも、すべての人に対しても、いつも善を行うよう努めなさい。

ヨハネ 15:1~10 「イエスはまことのぶどうの木」 (本文省略)

出エジプト記 4:10~17 「モーセの召命」、17:9~13 「アマレクとの戦い」 (本文省略)

ガラテヤ 6:1~9 「信仰に基づいた助け合い」 (本文省略)

▽参考資料▽

教会憲章 12 (神の民の預言職)

・・・聖なるかたから塗油を受けた信者の総体は (1 ヨハネ 2:20、27 参照) (1 ヨハネ 2:20、27 参照)、信仰において誤ることはできない。この特性は、「司教をはじめとしてすべての信徒を含む」信者の総体が信仰と道徳の事がらについて全面的に賛同するとき、神の民全体の超自然的な信仰の感覚を通して現われる。事実、真理の霊によって起こされ、ささえられているこの信仰の感覚によって、また聖なる教導職——これに忠実に従う者はもはや人間のことばではなく真に神のことばを受ける (1 テサロニケ 2:13 参照) ——の指導のもとに、神の民は、ひとたび聖徒たちに伝えられた信仰を (ユダ 3 参照) 傷つけることなく守り、正しい判断によってその信仰をいっそう深く掘りさげ、それを生活のうちにより完全に具体化してゆくのである。

『信徒の召命と使命』第 24 項

神がカリスマを与える源なので当然なことなのですが、聖霊のたまものは、カリスマを授けられたすべての人が、カリスマを全教会の成長のために役立てることを要求します。これは公会議が指摘するとおりです。

カリスマは、それを授けられた人によってばかりではなく、教会全体によっても、感謝のうちに受け入れられます。実際カリスマは、キリストのからだ全体の聖性と使徒職の多様性のための豊かな恵みの源なのです。けれども、これらのカリスマは、真に聖霊によるたまもので、この聖霊の正しい励ましに全面的に従って行使されるものでなければなりません。その意味でカリスマの識別がつねに必要です。事実、シノドスの司教たちはこういっています。「『思いのままに吹く』聖霊の働きは、必ずしも容易に識別され、また受けられるものではありません。わたしたちは、神がすべてのキリスト者のうちに働いておられることを知っており、また一人ひとりのためであると同時に、全キリスト者の共同体のために、カリスマから流れ出る恵みに十分気がついていきます。しかし同様にわたしたちは、信徒一人ひとりと共同体の生活のうちに動揺と混乱をまき散らそうとする罪の力にも気がついていきます」

教会の司牧者たちを無視したり、従わないようにするカリスマは存在しません。公会議ははっきりと述べています。「それらのたまものの正真性と順当な行使についての判断は教会を治める人々に属している。霊を消すことではなく、すべてをためし、よいものを保つことはとくにかれらの権限である (1 テサロニケ 5:12、19-21 参照)。こうしてすべてのカリスマは、多様ではあっても、互いに補足し合いながら、共通の善のために協力することができるのです。」

『福音宣教』第 58 項

決して自分たちを福音宣教の唯一の受け取り手あるいは働き手とは見なさないこと。また唯一の福音の保管者とも考えないこと。教会はより広大で多様性に富み、このようなさまざまな形式と表現のもとに存在しているということを知るべきです。